

『九州大学新聞』からたどる「図書館喫茶室」：昭和初期、コーヒーの残香

梶原，瑠衣
九州大学附属図書館

<https://hdl.handle.net/2324/7397148>

出版情報：Cultural story of Nishinihon. 517, pp.62-65, 2026-01-01. 西日本文化協会
バージョン：
権利関係：



【雑記】

『九州大学新聞』からたどる「図書館喫茶室」

―昭和初期、コーヒーの残香―

梶原瑠衣

「爽やかな珈琲
読書の疲れには
図書館喫茶室へ」

福岡の喫茶文化は大正から昭和初期にかけて花開いた。カフェー・ブラジル、カフェー・パウリスタ、明治製菓、サニー、生田菓子店など、さまざまな店の名が記録に残っている。昭和九年四月には、モダン都市福岡を語るうえで欠かせない、ブラジレイロが東中洲に開店する。同じ年の六月、箱崎のとある場所でも小さな「喫茶」の店が営業を始めた。その名も「図書館喫茶室」という。

図書館喫茶室は、昭和初期の九州帝国大学に存在していた福利厚生施設である。名前のとおり、図書館の建物内に設置されていた。図書館喫茶室に関する記録は、筆者が確認した限りまとまった形では残っていないが、『九州大学新聞（以下、「九大新聞」という）

により、断片的にその存在をうかがうことができる。本稿では、九大新聞の掲載広告や記事から、図書館喫茶室に漂っていたかもしれないコーヒーの残香を、かすかにでもお伝えしたい。（注記）

なお九大新聞において、図書館喫茶室の名称は、図書館喫茶部、図書館の喫茶室、図書館地下喫茶室など揺れがあるが、本稿では「図書館喫茶室」と統一して呼ぶ。

図書館喫茶室の開設

図書館喫茶室の存在が九大新聞に初めて登場するのは、一一〇号（昭和九年六月五日）。二面の片隅に小さな記事がある。

「図書館地階食堂 十日頃から開設

九大図書館新聞閲覧室下の新築なれる地階食堂は中央食堂が引き受けて愈々来る十日頃から営業開始する事になった」

初期の広告

昭和九年から昭和十二年ごろまでの九大新聞には、ほぼ毎号に図書館喫茶室の広告が掲載されている。この時期の広告には、季節の挨拶や新メニューの情報が盛り込まれており、明るい雰囲気がある。例えば、一一六号（昭和九年十月十日）の広告には、学生に対する応援の言葉が盛り込まれている。

「試験が迫りました
どうぞ御奮闘を祈上げます
図書館の喫茶室
中央食堂」
提供メニューに言及する広告もいくつかある。

「あたゝかいものの用意も御座います。」
一一七号（昭和九年十一月五日）
「東京式お汁粉召上り下さい」
一一九号（昭和九年十二月五日）
「東京式お汁粉召上り下さいませ
お雑煮も始めました」

一二〇号（昭和九年十二月二十日）
「おいしい最中を始めました。」
一二五号（昭和十年三月二十日）

「東京式お汁粉」とは汁が多く餅が少ない汁粉のこと。汁粉に雑煮と、甘味と塩味どち



九州帝国大学附属図書館本館

ここでいう「九大図書館」は、大正十四年に九州帝国大学の箱崎地区で開館した、九州帝国大学附属図書館本館のことである。アーレデコ調の美しい建物だったが、図書の収容能力が少なく、事務室が小さい、便所がないなど、図書館施設としては問題が多かった。そのため、開館からまだ間もない時期に二度の増築工事が行われた。二度目の工事では建物北側に新聞閲覧室が新設された。「地階食

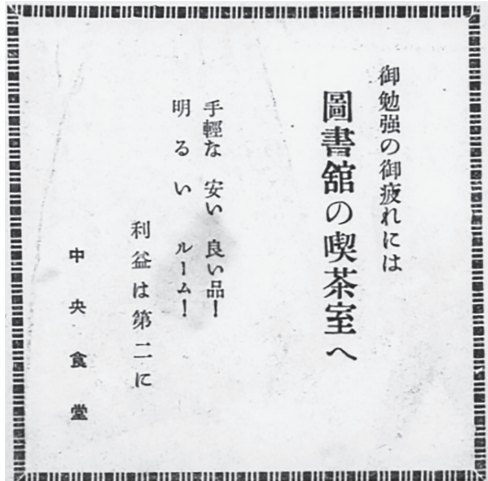


『九大新聞』120号 広告欄より

からも提供されていた時期もあったようで、なんとも気持ちが引き寄せられる。加えて後述の記事では、「チョコレート饅頭」なる名物も存在していたことが分かる。

コーヒーについては、広告への登場が軽食類よりも遅れる。一五一号（昭和十一年七月五日）では「爽やかな珈琲」、一六一号（昭和十二年二月二十二日）、一六二号（昭和十二年三月二十五日）では「爽やかな香り」と謳われている。ちなみに、戦前の日本におけるコーヒー輸入量ピークは昭和十二年だった。昭和十三年に国家総動員法が公布されたのちは、コーヒーは贅沢品となり、同年から輸入制限が始まる。

昭和十三年から昭和十四年ごろは、図書館喫茶室の広告はあまり紙上に見られない。



『九大新聞』111号 広告欄より

二〇〇号（昭和十四年六月五日）中の「九大法文会共済部々報」には次のような記事がある。

「五、委託事業

1、食堂、喫茶の部

数年来箱崎町在住の金子恒一氏に委託は経営せしめて居る。従つて値上等に関しては経営者の妄断を許さず常に共済部委員に事業を具陳して其の承諾を得る事が必要となつている。今春、定食、麵類、コーヒ、ミルク等の全般に亘り一錢乃至二錢程度の値上げが行はれたことは承知の事と思ふが、此は委員が諸般の事情を考慮し、萬止むを得ずと認定した結果である。

同じ経営に保する喫茶室は、既に図書館新聞閲覧室の下に喫茶室が設けられた結果、主として採光の点から衰微の傾向がないでないが、チョコレート饅頭を名物としてミルクの廉価を頼りとして此欠点を補ふことに努力して居る。尚演習茶菓の件であるが、之を共済部喫茶部より取寄せられ以て共済部本来の使命達成に御尽力あらんことを切望する。」

図書館喫茶室の場所が地階であるため、日当たりが悪く客足が思うように伸びないという状況が書かれている。時局を考えれば、コーヒー豆を始めとした物資の不足も、少なからず経営に影響を及ぼしていただろう。

戦火のなかで、喫茶室のゆくえ

昭和十八年、九大新聞自体が二六九号を以て休刊となる。この号は、ほぼ全面が学徒出陣に関する内容となつている。昭和十九年には、空襲に備えて附属図書館蔵書の学外疎開が決まる。附属図書館本館の白い外壁も黒に塗装された。図書館喫茶室と同じ年に開店した東中洲のブラジレイロは、強制疎開のため取り壊された。昭和二十年、福岡大空襲により街は甚大な被害を受けた。

戦後、九州帝国大学は新制九州大学として再出発する。九大新聞も昭和二十三年三月二十日の二七〇号で復刊するが、図書館喫茶室の広告はまだ現れない。

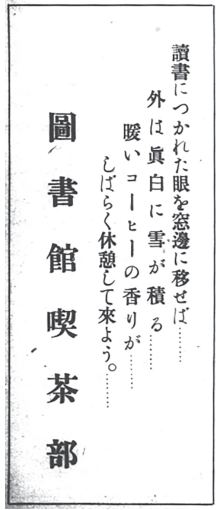
図書館喫茶室のあった場所に関しては、「九州大学附属図書館閲覧案内」から、わずかにその後の情報を拾うことができる。例えば、一九五一年版掲載の館内図面には「地階売店」の名がある。加えて本文では、館内に「学生喫茶室」があるとの説明が見られる。「学生喫茶室」の記述は、一九五三年版と一九五四年版にも見られるが、一九五五年版からは消える。

附属図書館本館の建物は、戦災を免れたのち長く箱崎キャンパスに残っていたが、平成三十年（二〇一八）に解体された。

図書館喫茶室のおわり

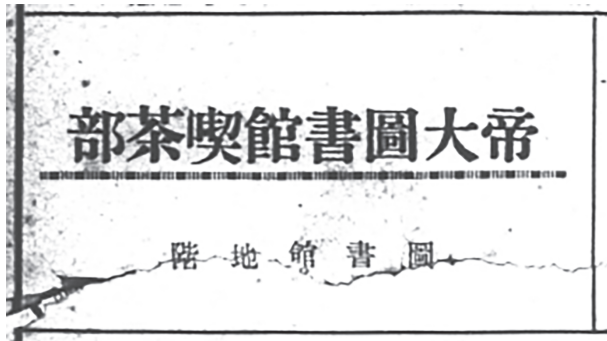
昭和十五年ごろ、九大新聞上で図書館喫茶室の広告はいったん復活する。二二三号（昭和十五年一月二十三日）には次のような広告がある。

「読書につかれた眼を窓辺に移せば……
外は真白に雪が積る……
暖いコーヒーの香りが……
しばらく休憩して来よう。……
図書館喫茶部」



『九大新聞』213号
広告欄より

実際に、地下の図書館喫茶室から二階の閲覧席までコーヒーの香りが届いたかどうかは疑わしいが、情緒あふれる広告である。閲覧席で本に向かう学生がふと顔を上げると窓の外が白く……、という場面が目につかぶ。ノートパソコンを畳んで一休みのためにカフェへ向かう、そんな現代の学生の姿ともどこか重なるように感じられる。



『九大新聞』250号 広告欄より

ただその後、九大新聞において図書館喫茶室の広告内容は簡素になる。二一五号（昭和十五年二月二十日）の広告は左の通りである。

「読書と喫茶
帝大図書館喫茶部
帝大構内」

二二六号（昭和十五年十月十一日）からは、再び広告は途切れがちとなり、ついには二五〇号（昭和十七年四月三十日）を最後に図書館喫茶室の広告は消える。

参考文献

咲山恭三『博多中洲ものがたり 後編』文献出版、一九八〇

九州大学大学文書館『九州大学新聞・九州帝国大学新聞記事索引』九州大学大学文書館、二〇一三

九州大学百年史編集委員会『九州大学百年史』九州大学、二〇一四―二〇一七

守安正『お菓子の歴史下』東京書房社、一九八五

旦部幸博『珈琲の世界史』講談社、二〇一七

注記

九大新聞には、図書館喫茶室の他にも、飲食店、衣料品店、文房具店、書店、映画館など、さまざまな広告が掲載されている。当時の学生生活と街の関係を感じさせる貴重な資料である。九大新聞は、九州大学大学文書館によってデジタル化され、九州大学附属図書館ウェブサイトで画像を公開している。

かじわら るい・九州大学附属図書館

＊九州大学附属図書館イベント情報＊

九州大学附属図書館では、所蔵する貴重資料等を広く一般公開しています。現在開催中の展示会は左記の通りです。※詳細は九州大学附属図書館ウェブサイトをご覧ください。

「人体・病をみる・みせる」展

写真も動画もない時代、人体の構造や病気の症例・治療法を伝えるため、先人たちがいかに格闘したか、貴重資料の図像をもとにたどる展示です。書籍、掛け軸やムラージュ（皮膚病模型）などの資料も展示しています。

【会期】令和七年十一月十日（月）～令和八年二月二十七日（金）
（年末年始十二月二十七日～一月四日は休館）

【時間】平日九時～二十一時
土日祝九時三十分～十七時

【会場】九州大学医学図書館一階展示室（病院キャンパス）

【問い合わせ先】九州大学医学図書館 閲覧係
TEL：〇九二―六四二―六〇三七

近代国際法史の歩み：九州大学所蔵本で見る展
九州大学は、世界でも珍しく、国際法史研究の伝統を有しています。その研究を支える蔵書は、グロテュウス『戦争と平和の法』初版をはじめとして、学術的な重要性和豊かさを誇っています。当展示では、この蔵書によって、近代国際法史の歩みをたどります。

【会期】令和八年一月九日（金）～二十九日（木）
【時間】平日九時～二十一時
土日祝十時～十八時

【会場】九州大学中央図書館三階エントランスホール（伊都キャンパス）

【問い合わせ先】九州大学中央図書館 サービス企画係
TEL：〇九二―八〇二―二四八〇